

科目等に関する意見・要望

内容：日々の課題が多く、論文に充てる時間が取れない。試験や課題をなくしてほしい  
回答：

大学院では、講義・演習・実習科目の履修のほか、研究成果もあげなければならないことから、日々の課題への取り組みに際して、院生の負担が大きいことは承知しています。専攻・領域ごとに専門的な知識・能力・技術を身につけてもらうために講義・演習・実習担当教員がそれぞれ独自に課題や試験を課しています。したがって、それを一律になくすことはできませんが、同時期に過重負担になっていないかどうか教員間で情報交換をして調整を図りたいと思います。

一方、修士論文作成については、「大学院履修ガイド」に、各指導教員が「研究指導計画」を示しており、この計画に基づき Semester ごとに計画的な修士論文指導を行うことになっています。自分の指導教員に随時相談を行いながら、修士論文の作成が滞りなく進むよう研究計画の検討を行ってください。

課題と修士論文作成とのバランスを大きく崩しているようであれば、研究計画の見直しも必要になると考えられます。その場合も、指導教員と連絡を密に取りながら、計画的に進めてください。教員側も可能な限り丁寧な助言・指導をしていきたいと思ひます。

内容：他領域の科目を取ることは、法で定められているのか。

回答：

大学院の教育目的・内容等を定めた「大学院設置基準」第3条1項には、「修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする」と記載されており、また、同第11条2項には、「教育課程の編成に当たっては、大学院は、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮しなければならない」と定められています。同様の内容は、本学大学院学則第2条（目的）及び第32条（教育課程の編成方針）にも明記されており、これに基づき本学地域文化研究科の履修規程では、視野を広げて教養を深め、また、自らの研究を相対化するために、専攻分野のみならず関連する分野（他領域の科目）も併せて履修できるように定めています。

ただし、本研究科各専攻において、他領域の科目履修についての意義や効果がやや不明瞭との指摘もあるかと思ひますので、実態等を把握した上で、より充実したカリキュラム開発を目指していきたいと思ひます。

大学院の施設・設備に関する意見・要望

内容：

大学院自習室は、一部の専攻の院生が専有している状況で、十分使える雰囲気ではない。専攻別に自習室を設けるか、パーテーション等で分けるなどの対応をしてほしい。

回答：

地域文化研究科自習室（13-603）について、本研究科の院生全員が施設・設備を十分に使用できていない状況であることは大変残念であり、速やかな対応が必要な要望と判断いたします。早急に実態を把握した上で、院生全員が使いやすい環境となるように対応を検討していきます。